

## 1. 第6回国際シンポジウムのプログラム

新学術領域研究第6回国際シンポジウムが、2012年1月19日(木)～20日(金)に、スラブ研究センター大会議室で開かれます。総合タイトルはComparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order (近現代帝国の比較：世界秩序変動の中での帝国統治と脱植民地化)です。近代帝国の統治システム、帝国間や帝国と周縁の相互認識、帝国の崩壊と国家再編、国際関係の中での脱植民地化、現在の大国を帝国として見る意味などを、ロシア、中国、インド、日本、イギリス、アメリカ、イラン、オスマン帝国を例にとって比較しながら議論します。暫定プログラムは下記の通りで、最終的なものは[センターのウェブサイト](#)で発表します。また、1月18日(水)には前日企画として、センター外国人研究員の報告を予定しています。[組織委員長 宇山]

### 1月18日(水)

15:30–18:00 Pre-symposium lectures

Taras KUZIO (University of Toronto / SRC) “Ukraine at Twenty: Post Soviet or Neo-Soviet?”

Nona SHAKHNAZARYAN (Kuban Social and Economic Institute / SRC) “‘Homo Sovieticus’ through the Armenian Diaspora’s Prism: Representations, Stereotypes, and Images”

Vladimir SHISHKIN (Institute of History, Siberian Division, RAS / SRC) [Title TBA]

18:00– Beer party

### 1月19日(木)

10:30–10:45 Opening Remarks

10:45–11:45 Keynote Lecture

Jane BURBANK (New York University) “Empire and Transformation: The Politics of Difference”

13:15–15:15 Session 1. **Imperial Rule: Structures and Technologies**

Maria MISRA (University of Oxford) [Title TBA]

Willard SUNDERLAND (University of Cincinnati) “The Tsar’s Handbook: Do’s and Don’ts for Ruling the Russian Empire, 1500s–1917”

ASANO Toyomi (Chukyo University) “Nation Building System and the System of Empire in Modern Japan”

Discussant: MATSUZATO Kimitaka (SRC)

Chair: TBA

15:30–17:30 Session 2. Empires and the “Others”: Mutual Relationships and Perceptions

Rudi MATTHEE (University of Delaware) “Imperialism vs. Collaboration: Iran and the West between the Safavids and the Qajars”

UYAMA Tomohiko (SRC) “Invitation, Resistance, and Adaptation to Empires: Cases of Central Eurasia”

KAWASHIMA Shin (University of Tokyo) “The Image of Traditional World Order and Tribute Relations in Min-kuo China”

Discussant: NAGANAWA Norihiro (SRC)

Chair: MORIKAWA Tomoko (Hokkaido University)

18:00– Reception at Sapporo Aspen Hotel

## 1月20日(金)

10:00–12:00 Session 3. The Fall of Empires and State Reconstruction: Legacies and Changes

Fatma Müge GÖÇEK (University of Michigan) “The Ottoman Imperial Legacy in the Middle East”

IKEDA Yoshiro (Tokyo University of Science) “Toward an Empire of Republics: Transformation of Russia in the Age of Total War, Revolution and Nationalism”

Aditya MUKHERJEE (Jawaharlal Nehru University) [Title TBA]

Discussant: TBA

Chair: AKIBA Jun (Chiba University)

13:30–15:30 Session 4. Decolonization: Regional and International Implications

AKITA Shigeru (Osaka University) “Economic Diplomacy of J. Nehru Administration after Decolonization of South Asia”

Qiang ZHAI (Auburn University at Montgomery) “China’s Road to Bandung: Beijing’s Evolving Approach to Decolonization”

KAN Hideki (Seinan Jo Gakuin University) “The Making of ‘an American Empire’ and Its Responses to Decolonization”

Discussant: David WOLFF (SRC)

Chair: AWAYA Toshie (Tokyo University of Foreign Studies)

15:45–17:15 Session 5. **New Empires? The United States and China**

Rob KROES (University of Amsterdam) “America: An Empire Among Empires?”

One more paper TBA

Discussant: TBA

Chair: TABATA Shinichiro (SRC)

17:30–18:00 General Discussion



## 2. 第5回全体集会の予定

国際シンポジウムの翌日の1月21日（土）午後2時半～5時の予定で、全体集会を開催します。今回の全体集会は、最終成果出版の原稿締切が来年3月31日に迫ってきていることを念頭に置いて、次の執筆者に草稿の発表をお願いします。

- 松里公孝（北海道大学）・中溝和也（京都大学）「民族領域主義と連邦制」
- 王柯（神戸大学）「『公共空間』という戦略：ムスリムとして中国に生きる」

皆さん自身の原稿執筆のうえでも参考になると思いますので、是非出席くださるようお願いいたします。全体集会の後、懇親会を予定しています。なお、新学術領域研究メンバーの旅費は、国際シンポジウムやその前後に行われる班会議を含めて、総括班でお支払します。

[田畑]



## 3. 第5回国際シンポジウム開催される

2011年7月7日から8日にかけて、スラブ研究センターで夏期シンポジウム『同盟と境界：地域大国を規定するもの』が開かれました。新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第1班（国際関係班）の主催、グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」（岩下明裕代表）、および科研費基盤研究A「北東アジアの冷戦：新しい資料と展望」（デイヴィッド・ウルフ代表）の共催による今回のシンポジウムには、海外から多くの研究者が集まり、合わせて日米安保60周年と、ソ連崩壊20周年を記念して行われました。今回のシンポジウムで最も重要な意味を持つ試みとしては、アジアの冷戦における同盟と境界の諸問題を明確に位置付けること、現代ヨーロッパの再編に関わる出来事を検証することが挙げられます。

これまで、ヨーロッパとアジアをめぐって二つの超大国が競い合うという構図が、冷戦を捉える上でお定まりの基準となっていました。現実はそのように単純な幾何学的構図で捉えられるものではなく、より複雑に絡み合っていました。まさに合意が結ばれる過程そのもののなかに、将来不和の生じる要因が含まれていることもあったからです。例えば

1950年に結ばれた中ソ協定の機密条項は、スターリンやその他の「新しい皇帝たち」に対する毛沢東の態度を硬直化させました。さらにその後、日米同盟の取引と、安全保障上の基地をめぐって内密の取り交わしがなされたことは、「マッカーサー憲法」の関連条項とともに、日本が再軍備にかかる出費を回避することを可能にしましたが、アメリカは後でこのことについて不平を言う



シンポジウムでの一コマ

ようになりました。中ソ関係の場合も、日米関係の場合もともに、安保条約にともなう経済的効果への期待が、長年にわたる非難の応酬を招くことにもなりました。あとから考えてみると、取引の核となる部分に意図的に残された様々な不均衡が、時代を越えてそれと認められる不平等を生みだし、同盟関係の破綻を招いたのは明らかです。

また同じく重要なのは、ほとんどの場合、同盟関係は敵対する勢力に対して目に見えない三角関係を作りながら結ばれるものだったということです。そのため、同盟関係にある国のどちらか一方の変化は、たとえ敵との緊張を和らげる望ましいものであったとしても、「抜け駆けの和合」という裏切りの恐れをもたらすものでした。日本の議員が1950年代に中国を訪問したことに対してアメリカが反応し、1970年代に米中の国交正常化にいたったことは、こうした点から分析されなければなりません。

国境もまた、しばしば厄介な問題となります。冷戦によってあらゆる戦闘に歯止めがかかるとともに、パルチザン戦、秘密作戦、「パブリック・ディプロマシー」など、クラウゼヴィッツの古典的な公式で言うなら別の意味で真の政治をなすところの様々な「小戦争」となると、国境をめぐり小競り合いが起きるようになりました。世界最長の中ソ国境は、友好的に機能する時期もありましたが、より永続的には両国を分かつ深い溝となりました。比較的流血沙汰になることの少ない国境をめぐり小競り合いは、しばしば壊れやすい同盟関係の裏に潜んだ三角関係を明るみにします。1959年と1962年に起こった中印衝突は、間

もなくして中ソ同盟が崩壊する要因となり、ネルーの抱いていた非連携、「非同盟」の道筋を弱めることになりました。1969年にウスリー川流域と新疆ウイグル自治区で起こった中ソ国境紛争は、一つの同盟が終わって別の同盟が始まることについて、中国がアメリカに知らせる明らかな合図でした。

国境と同盟に関する難問の数々においては、ヨシフ・スターリンから鄧小平、リチャード・ニクソンから中曽根康弘にいたるまで、私たちの時代における様々な政治家によって、地域の覇権を築いたり妨害したりするなかで、影響力が行使されてきました。その戦略や計画はしばしば期待とは異なる結果を招いたものの、基本的な輪郭は維持されたままで、同盟国は過去から持ち越された共通の利益や共有される将来の不安によって結びつけられています。国境と同盟に関する問題は、まさに地域大国がそれによって成り立っている要素なのです。これらのことが札幌の白熱した二日間で報告され、議論されました。シンポジウムで報告された内容は、グローバル COE プログラムの発行する雑誌 *Eurasian Border Review* の特集号として刊行される予定です。[D.ウルフ]



#### 4. 第4回全体集会開かれる

7月9日(土)に新学術領域研究第4回全体集会「最終成果の出版に向けて」が開催されました。今回の全体集会は、新学術領域研究の最終成果を各班1巻ずつの6巻本として出版することが最終的に決まったので、その出版に向けて体制を整え、各巻の位置付けを確認し合うことなどを主な目的としました。おかげ様で、執筆予定者の6割以上の方々に集まっていただき、有意義な議論ができたように思います。「地域大国」や「ユーラシア」の定義など基本的な概念の確認や、比較をどのように行うかなどの方法論をめぐる議論もなされました。また、7月9日の午前中や7月10日には、やはり出版を主要議題とする班ごとの打ち合わせが行われました。これらを通じて、最終成果の出版に向けてよいスタートが切れたように思っています。[田畑]



#### 5. ジョージワシントン大学 欧州・ロシア・ユーラシア研究所との共催セミナー

第2班と第3班では、ジョージワシントン大学の欧州・ロシア・ユーラシア研究所 (IERES:



Institute for European, Russian and Eurasian Studies) とアジア研究センター (Sigur Center for Asian Studies) との共催で, “China, Russia, and the Existing World Order: Seeking to Overthrow the Status Quo or Merely Pursuing Advantage within It?” と題するセミナーを 11 月 21 日に IERES で開催することになりました。これは, 第 2 班と第 3 班の研究者数名が 11 月 17 日～20 日にワシントンで開催されるスラブ・東欧・ユーラシア学会の年次大会 (ASEEES) で報告するのに合わせて企画されたものです。プログラムは以下のとおりです (詳しくは, 次のサイトを参照)。 [[http://www.gwu.edu/~ieresgwu/assets/docs/11.21.11\\_Panel.pdf](http://www.gwu.edu/~ieresgwu/assets/docs/11.21.11_Panel.pdf)] [田畑]

**Panel 1:**

Kimitaka Matsuzato (Hokkaido University) “Muslim Administration in Non-Arab Peripheries: Russia, China, India, and Turkey”

Atsushi Ogushi (Osaka University of Law and Economics) and Yuko Adachi (Sophia University) “The Power and Limitations of Dominant Party Control: United Russia, the Chinese Communist Party, and the Indian Congress in Comparative Perspective”

Discussants: Marlene Laruelle (IERES) and Deepa Ollapally (Sigur Center)

**Panel 2:**

Shinichiro Tabata (Hokkaido University) “Growth in the International Reserves of Russia, China, and India: Implications for the World Economic System”

Yugo Konno (Mizuho Research Institute Ltd.) “Comparison of Trade Liberalizations in Russia, China and India”

Discussant: Jiawen Yang (GW Business School)



## 6. 『比較地域大国論集』 No. 6 発行される

『比較地域大国論集』の第 6 号として, 岩下明裕 (第 1 班代表) 編による “India-Japan Dialogue: Challenge and Potential” [日印の対話: 困難と可能性] が刊行されました。これは, 本年 3 月 11 日にスラブ研究センターでおこなわれた国際シンポジウム “Indo-Japanese Dialogue on Eurasia” [ユーラシアをめぐる日印対話] の報告を中心にまとめたものです。当号の全内容を, [本領域研究のウェブサイト](#)からダウンロードできます。



## 7. 外国人プロジェクト研究員公募（第1班）

第1班（国際関係班）では、次の条件で外国人プロジェクト研究員を募集しています。

採用期間： 2012年1月5日～2012年3月15日

応募締め切り： 2011年11月25日

対象： 南アジア出身の研究者

研究テーマ： インド・中国・ロシア・アメリカの国際関係  
(特に中国の外交問題を専門とする研究者が望ましい)

勤務地： 北海道大学スラブ研究センター

応募方法等、詳細については、[本領域研究ウェブサイト](#)を参照してください。



## 8. 各班研究会情報

第3班では、ジュワハルルールネルー大学高等研究所との間で、次の国際会議を開きます。現時点でのプログラムは以下の通りです。

### **The 5th Indo-Japanese Dialogue on “The BRICs as Regional Economic Powers in the Global Economy”**

日時：2011年12月26日（月）～27日（火）

場所：ジュワハルルールネルー大学高等研究所

#### **26 December, 2011**

##### 9:30 Opening Remark:

Aditya Mukherjee (Director of JNIAS, JNU)

Sudhir Kumar Sopory (Vice Cancellor of JNU)

##### 9:50 - 10:20 Keynote Speech:

Shinichiro Tabata (Hokkaido University) “Growth in the International Reserves of Major Regional Powers: Comparisons of Russia, China, and India”

##### 10:20 - 13:00 Macro-Economy:

Akira Uegaki (Seinan Gakuin University) “Development in Global Economy: Middle Term

Analysis of China, India, and Russia”

Kai Kajitani (Kobe University) “Local Finance and Governments in the Economic Development of China and India: Distribution and Economic Efficiency”

Yugo Konno (Mizuho Research Institute) “Comparison of Trade Liberalizations in Russia, China and India”

Atsushi Fukumi (Tokai University) TBA

14:00 - 16:00 Productivity:

Shoji Nishijima (Kobe University) TBA

Azusa Fujimori (Osaka Seikei University) “Productivity Growth and Technology Diffusion in the Indian Manufacturing Industries: An Empirical Investigation on the Spillovers from Foreign Direct Investment”

Atsushi Kato (Aoyama Gakuin University) “The Effect of Corruption on Manufacturing Sectors in India”

16:15 - 17:45 Energy:

Nobuhiro Horii (Kyusyu University) TBA

Masumi Motomura (Japan Oil, Gas and Metals National Corporation) TBA

**27 December, 2011**

10:00 - 13:00 Poverty and Inequality:

Koji Yamazaki (Kobe University) “Nonfarm Employment and Poverty Reduction in India”

Masashi Hoshino (Hokkaido University) “Estimation of Regional Growth Convergence Using Polarization Index in BRICs”

Tomokazu Nomura (Kobe University) TBA

Sadayoshi Ohtsu (Emeritus Professor, Kobe University) “Labor Market and Pension System: Comparisons of Japan, China, and Russia”

Yuko Nikaido (Musashi University) “The Determinants of Access to Institutional Credit for Small Enterprises in India”

14:00 - 16:00 Industry:

Etsuro Ishigami (Fukuoka University) TBA

Atsuko Kamiike (Konan University) “Productivity Dynamics in the Indian Pharmaceutical



Industry:Evidences from Plant-level Panel Data”

Tomoo Marukawa (Tokyo University) “The Compressed Development of Renewable Energy  
Industry in China and India”

16:15 - 17:45 Historical Perspective:

Takahiro Sato (JNU, Kobe University) “India's Macroeconomic Performance in the Long-Run”

Kohei Wakimura (Osaka City University) TBA

17:45 - 18:00 Closing Remark:

Aditya Mukherjee (Director of JNIAS, JNU)

➤ その他の情報

第1班

執筆者会議

日時：2011年12月17日（土）10：00～17：00

場所：学習院大学目白キャンパス「東2号館8階第一会議室」

第2班

第3回研究会

日時：2012年1月28日（土）、29日（日）

場所：早稲田大学

第3班

班会議

日時：2012年1月22日（日）9：30～12：30（予定）

場所：北海道大学スラブ研究センター

第4班

班会議

日時：2012年1月21日（土）午前中

場所：北海道大学スラブ研究センター

第4班研究会

日時：2012年1月22日（日）午後

場所：未定（東京）

第5班

研究打ち合わせ

日時：2012年1月21日（土）10：00～12：00

場所：北海道大学スラブ研究センター

第6班

班会議

日時：2012年1月22日（日）

場所：北海道大学スラブ研究センター

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，阿部僚子

電話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メール rp@slav.hokudai.ac.jp

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター